

# 農村ツーリズム懇談会(農林漁業体験型教育旅行受入) 議事概要

日 時：令和6年(2024年)2月16日(金) 13:30~16:00

会 場：第二水産ビル4階4G会議室(札幌市中央区北3条西7丁目1番地)

開催方法：会場参加型(オンラインZOOM併用)

出席者：別紙「懇談会出席者名簿」のとおり

## <議事概要>

### 1 開会挨拶

#### (農村設計課)

- ・年度末の御多忙の中、参加していただき感謝。
- ・新型コロナは昨年5月に5類に移行し、通常の日常に戻るかと思っただが、農村ツーリズム、特に教育旅行は大きな影響を受けている。旅行ができない間、来る人も来られず、受け入れる方も感染リスクがあり受け入れられない等、止まっていたと考える。
- ・北海道も3~4万人あった教育旅行が、1万5千人まで減少した。特に宿泊を伴うものは、0に近いくらい減少した。それを元に戻していく。関係人口の増加には教育旅行は効果があると思う。
- ・本日お集まりの皆さまの忌憚のないご意見をいただき、どのように進めていけば良いのか、どのような形で支援ができるのか、何が求められているのかを色々聞いていきたいと思っている。
- ・皆様の現状と来年に向かい、どのようなことをするのかをお聞きしながら、今後の取組に活かしていきたい。

### 2 情報提供1

#### (農村設計課)

- ・教育旅行受入推進セミナー開催(道主催)について、別紙「資料1」に基づき、実施概要を報告。
- ・「教育旅行の受入に関するアンケート結果」について、別紙「資料2」に基づき報告。

### 3 情報提供2

#### (アグリテック)

- ・道北地域における広域連携の教育旅行受入について、別紙「資料3」に基づき報告。

### 4 近況報告

#### (長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会)

- ・今年度はコロナ5類移行をうけ、令和元年度以来4年ぶりの受入再開となった。長沼単独でフ

ファームステイ（農家へ宿泊を伴う受入）を受け入れたのは6校。

- ・コロナ直前の令和元年度は11高校の受け入れだったので、受入学校数では1/2、受入人数は1/5まで減少した。
- ・コロナ前は、120～130名を受け入れることができたので、80名で募集をし、実際に受入農家に意向調査したところ、半分くらいしか集まらなかった。
- ・1校で受け入れできる最大人数も130名程度から60名程度、その影響で受け入れることができる学校数も13校が6校に減った状況である。
- ・受入農家数減少の原因で一番多いのは「高齢による体力、気力が落ちたこと」である。他には「4年間受け入れをしていなかったのが気後れをした」「モチベーションが下がった」、「本人は元気だが、家族、特に妻の体調がすぐれず、受け入れられない」、「子供が成長し、部屋をあたえ、泊める部屋がなくなった」という事例も複数あった。
- ・色々な要因が合わさり、コロナ禍の間に減少してしまったことが、今年度再開し、わかった。
- ・ファームビジット（日帰り農業体験）はコロナ禍前190名の年間受け入れだったが、今年度は4校。
- ・令和6年度の受入予定は、HPにのせている受入上限人数を今まで80名だったものを30名程度に引き下げた。
- ・料金は他団体を鑑みて値上げした。その影響なのかわからないが、今年度の予約状況は芳しくない。問い合わせは多く25校あったが、そのうち、16校がキャンセル、9校がファームビジットで長沼町に来ていただけることになった。傾向として、農業を専門としている学校の応募があった。
- ・令和5年度、初めて受け入れたが、九州の農業大学校が来た。この学校は4つの学科（野菜、花卉、果樹、畜産）があり、農家での受入希望だが、長沼町はほとんどが野菜農家のため、花卉、果樹、畜産は少ない中お願いし、4つの学科の学生を受け入れることができた。
- ・大変好評で、来年度も同様の内容での受け入れの話を進めている。
- ・その他に関東・関西の農業に特化した学校も受け入れる。
- ・この傾向が続くのか不明だが、可能性は0とは言えないので今後はできる範囲で多岐にわたり要望に応じていくことも重要かと思われる。
- ・農業関係の学校は、可能な限り農業実習に近い内容の取り組み、雑草取りや道具の後片づけは普通の授業でしているのもので、それ以外の取組を希望されハードルが上がってきているので、農家が尻込みしないよう声かけをしながら、受け入れていきたいと考えている。

#### （マルベリー）

- ・コロナ禍の3年間は民泊、交流事業をする上で、我々にとってもショッキングであり、これからどうなるのだろう、ビジネス、特に高齢生産者の気持ちが落ちてしまったことが感じられる。
- ・その後、何度か生産者の皆さんと顔を合わせることもあるが、「もういいかな」というような答えが多い。
- ・コロナ禍の3年間は、協力いただいた生産者にアンケートをし、電話で交渉、感染対策、安全対策を取りながら3年間実施した。学校の理解もあり、年間20～24校、ファームビジットとファームステイも年に2校実施した。無事終わったが厳しかった。感染対策を取りながら不

安を抱えながらのかじ取りだったが、なんとかつなげてきた。

- ・昨年度の受け入れは、ファームステイ2校、ファームビジット22校。これは1/3がファームステイ、2/3がファームビジットである。
- ・コロナ前は逆に、ファームステイ2/3、ファームビジット1/3だった。受入生産者は、コロナ前160軒（道南含め）。バスで送迎するが、受入キャパが平均6名だが、道南と羊蹄エリア合わせ70軒まで減少した。
- ・ファームビジットも増えてきて、コンテンツの見直し、しっかりとした生徒の学びにつながる、生産者として厳しい状況のもと、どのような発信がしたいのか、生産者とよく話をし、受入状況から1軒にバス1台が向かう。30～40名。そこにガイド1名、アシスタント1名、生産者。
- ・以前はガイド主導でファームビジットを行っていたが、今は生産者主導に切り替えた。
- ・生産者が体験の組み立てをし、どのような苦勞をし、自然環境や経済環境、環境が変わる中でどのようなビジネスととらえ、力を入れているか、内面的な部分の発信につながっている。

#### (津別町グリーン・ツーリズム協議会)

- ・津別町は平成16年に協議会が立ち上がり、受け入れも小規模で、協議会立ち上げ当初から上限を40名としている。
- ・協議会が立ち上がった経過は、同時並行で有機牛乳の認証を受ける取組を進めていて、特色ある取組を色々な方に知っていただき、町のファームを増やすことから活動が始まった経緯がある。
- ・活動の根幹がビジネスではなく「町の取り組みを知ってもらう」から始まったことを認識いただきたい。
- ・立ち上がってからは関東と関西の決まった学校が年間2校、申込みがあればプラス1～2校という受け入れの形が続いていたが、コロナ禍でこれまで来ていた学校も、分散型の旅行、学年200名を40名程度で色々な地域に分散させることができないかと言われた。
- ・「1学年200名規模を受け入れられるか」というと、その規模では無理だったので、つながりが消えた。一度失ったつながりは復活できず、申込みは0に等しい。
- ・当初40名の受け入れ規模で実施していたが、受入農家の減少が著しく、現在は20名上限で受け付けている。現在は美幌町の力を借りながら、2町で受入人数を70名としている。
- ・来年度に向けて、正式な申込はまだ受けていないが、教育旅行の誘致を進めている中、興味を持っている学校もあるので、そこをどう受け入れにつなげていくかを進めている。
- ・受入農家の拡大は事務局として課題であり、コロナ禍でも農家と相談する等、努力はしたが「学生、他人を家にあげることはハードルが高い」等、あきらめかけていた。
- ・最近になり、受入農家の獲得はタイミングとを感じる場面がある。40歳代経営者の方々が、農業の未来を考える団体「テイクアクションミーティング」を設立した。その中で、持続的な農業を今後続けていくためにどうすればよいのかを活発に話されている。
- ・持続的な農業は所得を上げる、労働力を確保する等課題がある中で、最終的に「津別町の農業が他都市圏、市町村にとって選ばれる農業でなければならないこと」につながってきている。
- ・見てもらえる農業をどうするのかということで、SNS発信、農業体験から始めたらよいのではと話題が出ている。私はチャンスだと思っている。タイミングにより、消えかけた灯も着火

できるのではないかという思いも持ちつつ、継続して事業を実施しているところである。

#### (美幌町農村ツーリズム推進協議会)

- ・美幌町は平成29年農山漁村振興交付金を2本取得し、商工会議所がリーダーシップをとり、新たな観光客の誘致ということで、町、JAも加わり協議会を立ち上げ、その農村ツーリズム事業部門の責任者を私が担った。
- ・その後、残念ながら協議会は解散し、令和4年から町が主体となり、新たな「美幌町農村ツーリズム推進協議会」を立ち上げた。
- ・チームワークが大事ということの足場固めで、構成は町、農協、普及センター、美幌高校、農家さん5者で協議会を新たに立ち上げ、屋号を作り、口座を作り、商売を始めた経緯である。
- ・町も先進的な事例がある皆さまが集まられている中、新参者で津別町につき、オホーツクで農村ツーリズム事業を開始した2箇所目である。
- ・津別町と連携し、オホーツクでも一定程度の実績を上げていきたいと考えている。
- ・最近、道の主催する商談会に参加している成果か、少しずつ問い合わせがあり、昨年1月、2月は200~300数十名。問い合わせに応えるためには、美幌町、津別町の2町の70名受入キャパでは太刀打ちできないということで、管内で広域連携をつくる仲間を増やすため、1年前にJA北海道中央会の力を借り、管内14 JA青年部長、副部長会合に行き、プレゼンをした。
- ・結果、JA青年部長が手をあげてくれたところもあったが、1年たった今も音沙汰がない。進め方等を伝えたが、呼ばれることも問い合わせもなく、広域連携拡大が行き詰っている感触。
- ・相談会の成果もあるのか、令和6年は親交のあったJTBの課長から、新しい案件を問い合わせさせてくれている。昨年秋に先生と下見に来てくれ、決まりそうである。個人的なつながりで、知り合い関係を作っていく仕事をこなしていきたい。
- ・小規模のファームステイの受け入れも津別町と連携し、受入整備を作ることで、周囲に影響を及ぼすことができると考えている。
- ・SDGsの取組についても、チームワークの一環で一緒に取り組んでいる、美幌町立博物館の5名の学芸員と連携し、受入プログラム等も調整している。例をあげると、環境省の特定外来生物ウチダザリガニの駆除体験、在来種に及ぼす影響、命を粗末にせず堆肥化するプログラムを売りにして集客につなげたい昨今である。

#### (アグリテック)

- ・宗谷のファームステイの受け入れは5校、日帰り2校、農業体験系の受け入れは7校、全体で10校を受け入れ、残り3校はSDGsや農業プラス施設見学、ラフティングをしながら環境を学ぶ、複合的なプログラムの受け入れ、全体で880名程の受け入れをしている。
- ・今年度はコロナの影響で受入農家が減少し、もともと50軒200~240名の受け入れができていたが、今は25~26軒、なかなか道北エリアは誘致が難しい。
- ・旭川エリアでの受け入れだと80~120名がギリギリということで、今年度、スポーツピアと連携した。
- ・300~400名になると空知・上川と連携して、受け入れを行っている。
- ・今年も受入農家の拡大をしていく予定だが、高齢化、部屋がない、離農した等がある。
- ・一方で経営移譲を受け入れた若い経営者が、「親父はしなかったが、私がしてみたい」という

タイミングがあり、昨年も新規で1軒が受入農家になった。

- ・また、息子が土地を広くしているので余裕ができ、「息子是对応できないが自分がする」と猫の額ほどの畑でよければと、2軒ほど継続してくれた。まもなく80歳の方で、送迎サポートは我々がしている。
- ・農業学校系からの問い合わせがあり、農業高校の修学旅行ではなく10日間くらい、海外で農業実習をしていたものを日本でし、1農家当たり1～2名でよいので1週間から10日間くらい住み、専門的な農業研修を夏休み期間にしたいという問い合わせが2校ある。
- ・その他にSDGs関係が札幌圏の宿泊研修旅行と留萌管内の中学校が上川管内の農業体験や東川のまちづくりを含めたSDGsのプログラムを1泊2日でしたいと、探求学習やSDGsの問い合わせが昨年から4校きているので予約確定が11校ある。
- ・ファームステイは単独では受入キャパが難しいので、スポーツピアやオホーツクエリアと連携しながら全体で受入体制づくりができればよいと考えている。

#### (千歳観光連盟)

- ・千歳市は恵庭市と連携し受け入れをしている。コロナ前までは、広域に厚真町やむかわ町と連携して受け入れをしていた。
- ・コロナ禍のファームステイは、農家さんのモチベーションがあがらない、感染する等があり、受け入れていない。令和5年度は、ファームビジット日帰り体験に1校13名に来ていただいた。もともとファームステイ希望だったが、1日1日ファームビジット体験し2日間、ホテル宿泊でお願いし、受け入れした。
- ・令和4年度はファームビジットのみで4校を受け入れた。

#### (南知床標津町観光協会)

- ・ファームビジット、ファームステイ、酪農体験学習のコンテンツを設けているが、コロナ禍で今年度の受入実績はない。
- ・標津町はツーリズムという形で自然体験、漁業体験、歴史の勉強、合計38のプログラムがある。その一つに民泊がある。今年度は受け入れ38団体あった。日帰りが31、宿泊が7、総人数2,500名。旅行会社とのつながりで受け入れを行い、農家さんとの連携受け入れは現在、協議検討中で、グリーンツーリズム事務局の協力をいただき、農家さん100軒に受け入れに関するアンケート調査を行った。「過去に受け入れたことがある」と答えたのが4割程あり、その中で「今後、可能である」は9軒あった。
- ・地域の意向は受け入れ再開に向けて準備をしている。1月に民泊含めガイド研修セミナーを行った。参加した農業者は受入実績があり、農業経営を進めたく簡易民宿、乳製品づくりを個人として積極的に行っていきたいという推進力のある40歳代の農家もいるので、ポテンシャルがあることを感じている。
- ・これから参加するにあたり、農家がより主体的に、得意な面に関する受入方法を柔軟に考えていくべきかと。等しく皆が体験できることもあるが、農家さんの気持ち、考えや経営の意向があるので、そのコミュニケーションをより農家さんとしっかり行いたい。再開にあたり、1回目のハードルがあると思うので、学校や旅行会社と連携できるところと、マッチングしていきたいと考えている。

## <意見交換>

### (農村設計課)

- ・皆さんにお聞きしたアンケートではファームステイ実施4箇所、未実施5箇所。ファームビジット実施7箇所、未実施2箇所。
- ・コロナが明けて、なかなかファームステイができず、せめてファームビジットで受け入れている状況なのかと回答からみた。
- ・ステイとビジットの長所短所もあわせて聞いたところ、ファームステイの長所は「長時間を共有していることから絆が深くなること」で短所は「家族の負担が大きい」、ビジットの長所は「短時間に多くの人を受け入れられる、多くの人と交流できる」で、短所は「短い時間でコミュニケーションがとれない」と回答があった。
- ・ファームビジットなら受け入れられるのか、うまく交流できるのか。
- ・ファームビジットに対する考え方、お客様の要望など、教えていただきたい。

### (長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会)

- ・ファームステイの問い合わせが多く、ファームビジットは多くない。ただ、人数的には、ファームステイであれば40名、ファームビジットで120名まで受け入れられるので増えてほしいがファームビジットの問い合わせは多くない。ファームステイの問い合わせも多くあるがキャンセルも多い。
- ・ファームステイ40名、1クラスなら丸ごと受け入れられると問い合わせのあった旅行会社には話をして売りにしている。それを超える人数なら、隣町の千歳市や空知エリアにお願いして、受け入れしてもらえると長沼町も回数が増えるので、ありがたいと話している。ファームステイの中身は従来と変わらないが、農業系学校が来ることが、昨年から来年度にかけて増えてきている。

### (マルベリー)

- ・ファームビジットで受けている学校は、長年ステイで受けていた学校であり、当社が対応しきれなくファームビジットに移った。2/3かそれ以上を占めている。もう少し、ファームビジットの質も上げていきたい。
- ・農家も「宿泊は大変」で、「体験だけならやっつけられるのではないか」という話があり、そちらを広げていきたいと思っている。

### (農村設計課)

- ・ファームビジットのポイントは「特徴のある農家さん」と聞いているが。

### (マルベリー)

- ・来年度、再来年度のステイ需要が増えてきている印象である。その要因の一つに、ホテルが値上がりし、「ホテル+ファームビジット」は高価で修学旅行の予算では厳しくなっており、民泊の「体験+宿泊」は有効である。

- ・昨年度、8軒の生産者でファームビジット受け入れは320名。40名程が8軒に分かれて、農酪漁の地域産業体験の希望をとり、漁業120名まで、農業120名まで、酪農は160名まで、その中から選択制の形をとっている。
- ・ビジットの限られた時間の中で子どもたちに生産のしくみについて伝える、生産から消費者までどのように安全を担保して送られていくかの仕組み、日々の生産、年間の移り変わりをパッケージにしてどのようなところに苦勞しているのかを伝える。当社はSDGsについて、特に求めている。
- ・ヘルパーをしながら小さな酪農業を始めた方は、10頭の牛をビニールハウスで飼育し、牛が健康に育ってほしい、消費者に安心して飲める牛乳の提供と、通常であればビジネスでは成り立たない手法だが、彼が取り組んでいるのは、体験の受け入れ、ヘルパーをしながら酪農業をするやり方。
- ・さらに、昨年度ドライチーズにチャレンジしニセコの道の駅で売れるようになった。
- ・放牧型でほとんど濃厚飼料を使わない、グラスフェッドに近い牛乳を搾っている。後志管内の酪農家のなかで、常に微生物量が少なく、トップランナーである。
- ・今年度はグラスフェッドのアイスクリームにチャレンジする。規模ではなく、持続可能な経営を目指している。彼も当社の体験を受け入れて、このような考え方で子どもたちに伝える。個性的な生産者の皆さんに入ってもらい、発信力があり、子どもたちからの色々な質問がある。

#### (津別町グリーン・ツーリズム協議会)

- ・申込み自体が少ないので、ファームステイかファームビジットか、何とも言えないところがある。エージェントと話す中では、ファームステイのニーズがない。協議会と農業者の目的からもステイが良いと考える。
- ・事務局の意見は、多数が受け入れられるファームビジットのほうがありがたい。
- ・協議会の目的に沿うとファームステイが良いとの判断については、会長の話で「過去に受け入れた大阪の学生が札幌雪まつりに来るので、一緒に行って遊ぶ」とあり、今も過去に受け入れた学生とつながっていて、ファームステイで数泊し交流を深めたからこそ、現在も連絡をとっているとのこと。

#### (美幌町農村ツーリズム推進協議会)

- ・駆け出しで実績がないが、2017年に町の内部で起案し、事業化したいということで町長決裁があり、スタートした。その時は、農家さんの負担を考え、受け入れが難しいという判断の中から、ファームビジット一本で始めた。
- ・その後、2017年3月に開催された教育旅行フォーラムで講師の話を聞き、ファームステイも同時に進めないと事業が難しいと判断し、同時進行に切替。
- ・現在、問い合わせ案件はファームビジットが多いが、商売上、楽である。そこは明白で、200名の話がきて、津別町と当町で、1軒の農家さんあたり20名受け入れると、5農場で受け入れられる。その辺は需要に応じて、柔軟に対応していきたい。

### (アグリテック)

- ・エージェントからの問い合わせは、民泊が圧倒的に多い。
- ・ビジットは学校の予算により、農業高校は青年の家等に宿泊し体験を重視。公立学校はファームステイ料金が出せないのもでビジットに。
- ・エージェントは民泊を提案しており、学校の予算規模でビジットの問い合わせもあるが、ほとんどはファームステイ。私たちがファームビジットよりファームステイのほうが良いと思う。
- ・高速道路ができたことで、当地域も通過型になったことから、泊をとまなうことにより、我が地域を知ってもらおうと民泊を始めた。空知上川エリアは大雪山エリアに行くと、温泉など200～300名が宿泊できる施設はあるが、宿泊施設から農業体験ほ場まで距離があり、また、事例で紹介した道北エリアは200～300名を受け入れる宿泊施設がないので、誘致となると滞在する拠点づくりが必要。
- ・地理的要因、大きな宿泊施設があるかないか。学校側は暮らしの体験、寝食を共にすることで、暮らしを体験させたいところがあるので民泊ができないかという問い合わせが多い傾向にある。

### (千歳観光連盟)

- ・皆さんと一緒にファームビジットよりファームステイが良いと思っているが、受入農家がないというところで、ファームビジットのみ受け入れをしている。
- ・学校側の意向によるが「2～3時間、土をいじっていれば」というのもあれば「じっくり体験をしたい」というものもある。
- ・立地的に千歳は恵まれている。空港も大きく、市内にホテルも多くあり、大きな学校でもホテルに宿泊できるが、ファームビジットになると体験料にプラスしてホテル代を合わせるころがネックになると思う。

### (南知床標津町観光協会)

- ・学校の意向は教育効果が高いファームステイがあると思う。プランとして民泊と酪農牛舎での体験、JAが管理している育成牛舎、3施設を提供し選択いただく形である。
- ・学校側で産業系のプログラムがあるので、複合的に考えていただくとよいと思う。
- ・農業理解だけではなく、外のふれあいを密でしたい、生徒の感動というところを目的であれば、他の体験プログラムがある中でも、民泊がかなりの教育効果がある。
- ・こちらのキャパシティは20～30名でオプションになってしまうことから、それでも大丈夫であれば受け入れたい。

### (農村設計課)

- ・1点気になったことは、今回、道北で実施した静岡県の高校は4つの班に分けて80名来たという話があり、分散型もあるのかと思った。
- ・一方、分散型ができなくなったという話もあったが、分散型の課題については。

### (アグリテック)

- ・分散すればするほど、先生の数が必要で、面倒がみきれない。生徒の体調、感染対策をする中

で、そこまで先生の配置ができない。学校の体制として物理的にできない。

#### (農村設計課)

- ・体制の話について、1箇所ではできないのであれば、広域連携を考えたらよいのではと考えるが、広域連携の中で受入側が、事故などがあった時どうするのか、バックアップ体制は非常に難しいと思った。留意する点を教えていただきたい。

#### (マルベリー)

- ・羊蹄エリアでは生産者のところに迎えに行く、または、宿泊本部の先生を乗せて行くようにしている。
- ・もし、大きな事故があれば救急車を呼ぶと思うが、これまでは事故はない。
- ・道南地区の広域の場合は、厚沢部、七飯、大沼に分かれて受け入れるがその場合に何かあった場合は、受け入れたところで対応する体制をとっている。

#### (長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会)

- ・長沼町単独で実施しているので、何かあった場合は町の中で。ただ、今後ほかの団体と連携するとすると、基本的に地区ごとで責任もって対応していくことが基本と考える。学校の先生方と連絡体制をどうとるのかを構築していけば、問題なくなるのではと思う。

#### (アグリテック)

- ・上川空知との連携の場合は、本部、仮本部、第2本部という体制である。
- ・上川管内は弊社会員の団体は、協議会があるので、その中で連絡体制を弊社と連携し、受け入れ農家の調整も、協議会の中でしている。その中で、リスクマネジメント、受け入れ事務局に連絡をし、救急の場合は要請し、急ぎの場合は、広域連携は協議会を通した体制である。道北エリアは課題にもあったが、宗谷道北エリアと体制を今後作っていかなければならない。

#### (農村設計課)

- ・アンケート調査の中で「教育旅行受入推進にあたり、どんな目的のセミナー・勉強会の開催を望みますか」という質問に対する回答として、②受入のやりがいや効果等の理解促進、⑥JA青年部と女性部への受入理解促進を選んだ回答が一番多く、②はイメージがつくが⑥に関して、どうアプローチするか頭を悩ませているが、先ほど、美幌町で実施した話を聞いたが、その話を教えていただきたい。

#### (美幌町農村ツーリズム推進協議会)

- ・市町村とJAは響かなくボトムアップでやるしかないと考え、JA青年部にアプローチした。JA北海道中央会は事業に対するポジティブな姿勢でいるので、私の相談にもすぐに対応してくれた。実際にその場で3青年部長から受け入れしたいとの手が上がり、そのうち、一人の青年部長は地元のJA、役場を飛ばして美幌町と実施したいとの声であり、それ以来は問い合わせがなくなっているので、2回目、3回目でもう一度話をしていく必要があると思っている。青年部長も昔と違い、順番で変わってくるので、新しい人たちにアプローチしていくことが

有効的かと思っている。

#### (農村設計課)

- ・長沼町は、受入農家を増やすためにチラシを作成して農家に配布したという話を聞いたが、その後の動きは何かあったか。

#### (長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会)

- ・私が来る前の話で、当時の会長がJA青年部と女性部の会合で時間をもらい、一緒に受入しようと言ったが、反応がなかったという話を聞いた。次回は、会長一人ではなく、実際に受け入れをしている先輩農家と一緒に話をしていくのが良いかと思っている。
- ・JAの手ごたえがないということで、話を聞いてもらうのがダメなら見てもらおうと思い、チラシを作り、長沼町内の全ての農家にJA協力のもと配付したが、残念ながら問い合わせの電話はなかった。
- ・ただ、このような取組をしていることは浸透しているはずなので、もう一つ二つしかけをしたら、受入をしたいという声が出るかと思っている。
- ・今年度、新規就農者が2名入った。先輩の知り合い農家からの声かけということなので、最終的には先輩後輩の関係などを活かして、地道に増やしていくしかない。全体にしかけること、個々にしかけること両方を実施していくしかない。
- ・アンケート調査の回答で設問19その他記載で「直接農家さんに訪問」とある。実施を考えているが、どのような感じが教えていただきたい。

#### (マルベリー)

- ・断られて当たり前という概念で、どんどん訪問する。
- ・当初25～30軒に農家に個別訪問し、そのうち1軒が受入してみようという結果であった。そこにリーダー的な人がいて実施した場合は芋づる式で増えた経験はあるが、コロナ禍でその芋づる式もなくなってしまった。

#### (美幌町農村ツーリズム推進協議会)

- ・私も直接農家訪問をしている。農家さんにつながる仕事もしていたので、個別訪問と普及センターにお願いし研修会でプレゼンさせてもらい推進し、現在20軒の受入農家がいる。1日5～6軒の農家さんを回った時もあった。

#### (農村設計課)

- ・農家だけでしていたグリーンツーリズムを地域ぐるみでできないか、そうすると農家の負担が軽くなり、受け入れやすくなるのではないかと農村ツーリズムを推進している。ビジットにこだわったのは、自宅に宿泊はできないが、体験だけは受け入れられる。旅館等と提携して日帰り体験ができればよいのではと考えていたが、今日の話の中で、ホテル代が高くなっており、ファームステイが見直されているのはそのような意味もあるのかと感じた。非常に興味深かったのは、農業関係の学校が来る。なぜ、そのような学校が長沼町にたどり着いたのか。

#### (長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会)

- ・昨年、九州の農業大学校が3つの学科を受け入れることを条件に出していて、旅行会社でリサーチしたら、長沼町はほとんど野菜だが、町中に1つ酪農があったので、話がきた。
- ・酪農の学生は女性2名、男性5名の7名が来た。男女一緒に宿泊できず、受入酪農家は1軒だったので宿泊はできなかった。2日目終日と3日目午前中のビジットという形の2泊3日。宿泊はそれ以外の農家が宿泊のみ受けてくれたので、実施できた。
- ・大学教授が2名ついてきて、全部の農家をまわった。学生よりも先生のほうが感激して、大学の先生から、来年もぜひ長沼町に来たいという話になっている。
- ・何が良かったのか聞いていないが、普通の農業体験ではなく、1つ上の農業体験を希望している。

#### (農村設計課)

- ・皆さんから何か。

#### (美幌町農村ツーリズム推進協議会)

- ・ファームビジットの調整で、トイレ問題が大きい。トイレについては、どのように対応しているかお聞きしたい。

#### (マルベリー)

- ・当社はガイドと学校の会う場所を道の駅にし、施設のトイレをつかっている。

#### (長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会)

- ・集合する施設でトイレをしてもらい、その後は、バスで移動し各農家さんに生徒を降ろしたあとは、農家さんのトイレを使用している。特に「トイレに困った」という声はない。

#### (アグリテック)

- ・日帰りは3～4名、今は10名くらいの体制で、各家庭のトイレを使用しており、問題は生じていない。

#### (農村設計課)

- ・昼食については、どのような対応をしているか

#### (長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会)

- ・町内の業者に弁当を注文している。各農家までバスで移動し、子どもたち各自、弁当を持って降りるスタイルである。以前はバスで送った後、事務局が弁当を持参し各農家まで運搬していたが、時間がかかりすぎたので今のスタイルにした。農家でご馳走を用意するという話もあったが、ファームビジットでの体験の時間がなくなってしまい、ビジットの狙いと外れるだろうということで、弁当方式にしている。

#### (アグリテック)

- ・コロナ前は各家庭で準備していたが、今は、弁当を出している。

#### (千歳観光連盟)

- ・地元の弁当業者をお願いをしている。

#### (南知床標津町観光協会)

- ・ガイド協会の中に、食部会というものがある。食事の事業者が仕出しとして提供でき、昼食メニューが複数あり、選んでもらう。アレルギーも当協会と旅行会社とやり取りし、対応している。

#### (農村設計課)

- ・夏はお弁当が傷んでしまうのではないかと考えるが。

#### (長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会)

- ・できるだけバスが出発するギリギリに届けてもらう。それに合わせて弁当作りをしてもらっている。昼食は、バスで移動し各農家に降りたらすぐに弁当を食べて腹ごしらえし、体験をする流れとなっている。アレルギーに応じた弁当を作ってもらい対応している。

#### (マルベリー)

- ・重度アレルギーについては、航空会社の機内食を専門に作っている業者の総菜を大量に買ってにおいて、メニュー表に掲載し選んでもらう。普通の弁当より割高にはなっている。生産者の数だけ弁当配りのスタッフも雇っている。

#### (美幌町農村ツーリズム推進協議会)

- ・弁当というアイデア、非常にいいなと思った。
- ・調整しているのはバーベキュー方式を含めて料金に入れ、そこに特産品を入れることをマストにしていた。
- ・弁当のアイデアは時間効率、コスト的、手間的にもありだと思い、大変参考になった。

#### (農村設計課)

- ・最後にこれはというものがあれば。

#### (アグリテック)

- ・南知床標津町観光協会にお聞きしたい。
- ・釧路や知床から入ってきて阿寒に泊まるなど、受入はどのような滞在日数、行程が多いのか。

#### (南知床標津町観光協会)

- ・一番近いのは中標津空港だが、女満別空港入り、釧路空港入り、場合によっては札幌から大移動してこちらに来る。

- ・ だいたい3泊4日の中に日帰りで組み込まれる。大きな宿泊場所は標津町になく、分宿で80名程の受け入れをし、その規模でも泊まりたいのであれば1泊2日がある。そこを中心に根室に行きたいということで、2泊するところもある。

**(美幌町農村ツーリズム推進協議会)**

- ・ 受入実績の中に内閣府の北方領土事業絡みで、事業を活用して受け入れた実績はあるか。

**(南知床標津町観光協会)**

- ・ 事前に計画をたてて申請いただいて8割くらい。それ以外は予算の限りもあるので、できないところもある。
- ・ 窓口が役場にあり、こちらで実務を行っている。内閣府の北方領土事業絡みで、受入人数が上がったというのがある。
- ・ なかなかお金がないと道東の方まで旅費がかかり、体験費もかさむので難しく、補助金の効果は出ている。

**5 閉会**